

(図2) 県内の学内ボランティアセンター・ルーム(設置順)

No.	名称	地域	設置時期(年)
1	上智短期大学 キャンパス・ミニストリ	秦野市	1987 (S62)
2	情報科学専門学校 学生コミュニケーションルーム	横浜市 横北区	1989 (H元)
3	東京工芸大学(厚木キャンパス) ボランティア支援センター	厚木市	1998 (H10)
4	明治学院大学(横浜キャンパス) ボランティアセンター	横浜市 戸塚区	1999 (H11)
5	聖セシリア女子短期大学 ボランティアルーム	大和市	2000 (H12)
6	和泉短期大学 実習・ボランティアセンター	相模原市	2001 (H13)
7	横浜市病院協会看護専門学校 ボランティア部交流会	横浜市 南区	2002 (H14)
8	フェリス女学院大学(緑園キャンパス) ボランティアセンター	横浜市 泉区	2003 (H15)
9	関東学院大学(金沢文庫キャンパス) 学生ボランティアセンター	横浜市 金沢区	2004 (H16)
10	神奈川大学(横浜キャンパス) 学生ボランティア活動支援室	横浜市 神奈川区	2004 (H14)

大きく掲示スペースを確保し、「見やすさ、分かりやすさ」に配慮しながら収集した情報を加工し、提供を行っています。

「ボランティア活動をやってみたい」「ボランティア活動をしたけれど、なかなかできない」「ボランティア活動の中での悩みなどを話せる場が欲しい」など、一人でも多くの学生にボランティアセンターを利用してもらいたいと学生スタッフは願っています。

次に「学校主導型」の例として、聖セシリア女子短期大学ボランティアルームでは、保育者養成教育の理念を直接体现する機会とし

て、学生の意見を反映させながら「ぼらんていあ・フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、ボランティア活動への理解を深め、さらに学生の自主的な活動への「動機づけ」をねらいとしています。短期大学は在籍期間が二年間であるため、ボランティア活動の推進をインターンシップ(就業体験)や、実習教育の延長として位置づける一面もあります。しかしその本質は「人間教育」にあり、ほぼすべての学生が卒業までにボランティア活動を行い、卒業時には「自分と社会の関わりを知り、自分にできることを行う」といっ

た成長を遂げているようです。

求められる「ミニコミュニティネット」 「フック型」の支援体制

かながわボランティアセンターでは、これまで学生ボランティアガイダンスの実施、学生ボランティアセンター設置の立ち上げ、各種相談・情報提供など、学生ボランティア活動の支援を大学と協働で行ってきました。また、「学生のボランティア活動支援」活動環境の整備にこだわり、取り組みを進めてきました。

「なぜ、学内にボランティアセンターは必要とされるのか」の問いに対し、一般的には、「学内にボランティアセンターを設置することで、『教育的効果』への期待が高まる」と言われていますが、今回の調査結果から、「学生」「学校」「地域」が具体的にどうつながっていくかという課題が示され、「通学圏域」、「生活圏域」をふまえた活動支援の可能性を追究していく必要も出てきました。

こうした点から学生ボランティア活動の広がり、学生の主体性を尊重しつつ、ミニコミュニティネットワーク型のゆるやかな支援体制の確立を目標のひとつに展開していくことが求められます。

(かながわボランティアセンター)

(図3)

「大学・短大・専門学校におけるボランティアに関する取り組み調査」について

- 1) 調査対象 神奈川県内の大学・短大・専門学校ほか総計202校
- 2) 調査時点及び期間 調査時点は、2005(平成17)年1月1日(土)現在とし、調査は2005(平成17)年1月17日(月)から2月14日(月)まで
- 3) 回収結果

県内総計	112/184 (60.9%)	県内外総計	122/202 (60.4%)
(内訳) 県内大学	37/49 (75.5%)	県内短大	19/25 (76.0%)
県内専門学校	56/110 (50.9%)	県外大学	10/18 (55.6%)

※数字は回収数/対象数

*「報告書」をご希望の方は、かながわボランティアセンターにご相談ください。☎045-312-1121 (内3244)